

竜王中学校 学校関係者評価書

令和5年2月1日(水)
竜王中学校学校関係者評価委員会作成

第一回 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年1月31日(火)

参加者：(学校関係者評価委員) 千野雄広 川口優一 中嶋正人 鷹野秀樹
桂原 幸 島田明人 望月陽子 渡邊有志
(学校側) 野本真二 河西 修 窪田昌彦

I 学校側から提案された内容

令和4年度自己評価, 令和4年度生徒用アンケート集計結果表, 令和4年度保護者アンケート集計結果表
(いずれもR3・R4を比較できるもの)

II 協議された主な内容

自己評価シート及び生徒アンケートの集計結果, 保護者アンケート集計結果をもとに学校の現状(成果と課題)や取り組み等について情報を共有・協議し, 学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

アンケート結果は, 肯定的な回答が多く, 概ね予想通りの結果である。しかし, 昨年度から引き続き感染症対策を実施し, 様々な内容に制限が設けられることにより, 生徒のためにやりたいことが思うようにできない状況は教職員の自己評価を確実に低下させた。このような状況の中でも職員は, 「自己表現活動」を工夫し実践してきた。特にICTの効果的な活用による協働的な学びの実践は, 校内研究を中心にロイロノートの活用で大きく前進した。生徒は学び合いの場面が増加し, 自分の考えを发表或し, 議論し合ったりするようになった。学園祭では竜王中の伝統である学年演劇にどの学年の生徒達も自信をもって取り組み, 見ごたえのあるものとなった。生徒の職員への信頼は確実に向上しており, 学力向上に向けた取り組みも成果として実感できる内容が増えている。

本校は生徒指導上の問題は近年非常に少なくなった。日頃から生徒一人ひとりが抱える問題に丁寧に寄り添ってきた本校職員の努力の成果であると考え。しかし, 喫緊の課題として不登校やいじめが依然として存在する。保護司・生徒会・小中連携でのあいさつ運動, 学校開放, 高校生の活動から生き方を学んだPTA教育講演会, PTA会長に御協力頂いた学校内施設の環境改善工事, 1・2年の職業学習への地域人材の協力等, 今後も保護者や地域とのつながりを大切にしたい学校運営を実践していく中で改善していきたい。

II 特徴

- ① 学校教育目標については全5項目, 全てが肯定的評価80%以上となった。「学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている」はAとBを合わせて100%, A評価の割合が高かったものは, 「学校教育目標が, 学校経営方針を踏まえたものになっている」だった。学校経営方針を明確に示し教師の意思統一が図られていることがうかがえる。一方, 職場の福利厚生や健康管理への回答は昨年度からA61.3%→A29.4%に下降した。多忙化改善計画を実行性のある取り組みにし, コロナ禍にあっても職員が意思疎通を図り, ストレスを感じずにやりがいをもって働くことが出来る環境づくりに努めなければならない。
- ② 学校運営については全8項目の内, 7項目が肯定的評価80%以上となった。A評価の割合が高かったものは「報告, 連絡, 相談, 確認」を行っている。「他の教職員と連携して協働体制で, 教育活動にあたっている。」「諸表簿や文書, 記憶媒体を適切に管理・活用している。」である。A評価が低かったものは, 「適材適所の校務分掌がなされ, 負担について配慮がなされている。」「校務支援システムを十分活用できている。」であった。職員の連携・協働を深め, 分掌の役割や機能を点検し, 負担を分散・軽減していく必要がある。
- ③ 学習指導については肯定的評価が80%以上となったのは7項目中全てであった。特に「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」「個に配慮した基礎, 基本の定着を図る授業を行っている」「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」が100%であった。一方, 否定的評価が「道徳の時間が計画的に実施さ

れ、心に響く授業が行われている」において22.2%→24.1になり二年連続の増加となった。道徳の授業研究など校内研究への位置づけを検討する必要がある。

- ④ 生徒指導については全6項目全てが肯定的評価80%以上となり、4項目が100%であった。A評価の割合が高かったものは「児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」と「児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」であった。また、生徒アンケートにおける肯定的評価は①②③④⑤⑩⑭において高評価が継続しており昨年度をほとんどが上回った。特に「困ったことがあったら相談できる先生がいますか」が増加し、教職員への信頼が増している。二者懇談や三者懇談に加え、紙ベースのたつこの相談表以外にICTを使った生活調査やQU調査も行い生徒の気持ちに普段から寄り添う指導の充実に努めた成果と考える。
- ⑤ 地域との連携については全6項目すべての最頻値がB評価となった。特に低かったのは「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」「PTA活動に積極的に参加している」であった。保護者によるボランティア活動の推進や地域人材の活用を本年度以上に取り組んでいきたい。
- ⑥ 学校の特色については4項目中すべてが肯定的評価80%以上（最頻値はB）となった。
- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------|
| 【挨拶】 | R2 97.1%→R3 96.8%→R4 94.1% | 【読書】 | R2 100%→R3 100%→R4 94.1% |
| 【学校行事】 | R2 100% →R3 100%→R4 97.1% | 【信頼関係】 | R2 97.1%→R3 100%→R4 97.1% |
- 特に肯定評価が高かったのは、「生徒が学校行事や校外学習に進んで取り組むよう、指導に努めている」「生徒と教師の信頼関係は良好である」であった。
- ⑦ 創甲斐教育については、最頻値はすべてB評価である。肯定評価は読書・言語活動93.5%→84.8%で減少したものの、スピーチ・自己表現93.5%→94.1% 体力向上・健康指導90.4%→90.9%は微増であった。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・コロナの関係で国際交流がストップしていることがとても残念であり、子ども達がかわいそうである。これがあると英語の授業にもう少し関心を持てると考える。（川口）
- ・保護司による出前授業を実施した。少年法を踏まえ、いじめは決して許されるものではない事などを学習させたが、依然いじめは存在し、あまり理解できていないとすれば残念な思いである。（川口）
- ・生徒達がコロナによりストレスをため今後どのような生活をするのか心配していたが、学習や行事もほぼ実施できており心配していたほどではなかった。70%ほどは学校行事も達成しており良い印象をもった。先生と生徒のコミュニケーションもうまく取れているようで生徒も満足感をもっている。3年間の混乱した世界状況の中で生徒は頑張ってきていると感じる。（中嶋）
- ・校門の前で一礼するような学校に育っていることがうれしい。出前授業でも静かに話を聞くことが出来る竜王中の生徒はとても良い。生徒指導上の問題も減少し先生方も安心して授業研究に取り組めると考える。（川口）
- ・コロナでモチベーションが下がっている。中学で一番モチベーションが上がるのは部活である。子ども達同志で学んでいくことがとても大切である。自分の肌で感じて成長していくことが大事である。（鷹野）
- ・道徳で心に響く授業が再び前年度より下降していることが気になる。教師は勉強をよく教えてくれ、子どもが相談できる先生がいることが素晴らしいことであり、生き抜く力を身に付けさせる道徳を頑張ってもらいたい。（島田）
- ・スマホを持っていない生徒が非常に少なくなり驚いた。スマホは活用方法によっては悪いものではなく活用方法を先生方から提案していただけたらありがたい。また、地域の関わりが少なくなったと考えている先生方が増えたが、学校関係者委員も地域の架け橋となりお役に立てたならと考えている。（島田）
- ・私の子どもは修学旅行に行けなかったが、先生達の努力で各種行事が実施でき保護者も喜ばしく思っている。先生達の評価で福利厚生が下がっていることが心配。先生方の不安を改善しないと、授業でよいパフォーマンスを発揮できない。来年は先生方の福利厚生が向上していくことを期待している。（桂原）
- ・教員の働き方改革の視点からコロナで出来なかった行事が復活するのはいいのだが、見直し精選していくという姿勢が大切。部活動は来年度においては現状の状態が始まると考える。子ども達の活動を4:45以降に見てもらうのは大変であり、来年度は5:30分以降は自分の時間をもてるよう働き方改革、業務改善に努めていく。火曜、木曜は清掃カットなど、働き方改革と子ども達の教育の充実のジレンマはあるが、子ども達に学校生活の向上を目指した取り組みを保証してあげたい。（校長）